(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2018-93921
(P2018-93921A)
(43)公開日　平成30年6月21日(2018.6.21)

(51)Int.Cl.			F I			テーマコード（参考）
A47C	7/74	(2006.01)	A47C	7/74	C	3B084
A47C	7/00	(2006.01)	A47C	7/00	B	

審査請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 10 頁）

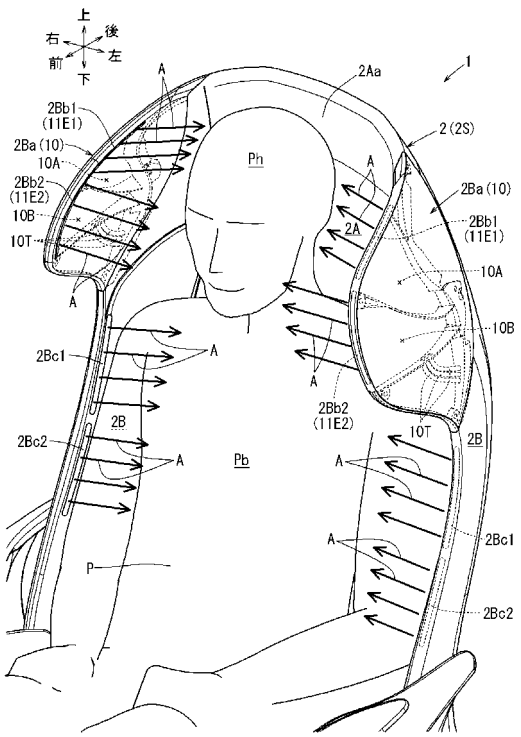
(21)出願番号　特願2016-238370 (P2016-238370)
(22)出願日　平成28年12月8日 (2016.12.8)

(71)出願人　000241500
トヨタ紡織株式会社
愛知県刈谷市豊田町１丁目１番地
(74)代理人　110000394
特許業務法人岡田国際特許事務所
(72)発明者　赤池　文敏
愛知県刈谷市豊田町１丁目１番地　トヨタ紡織株式会社内
(72)発明者　辻　博史
愛知県刈谷市豊田町１丁目１番地　トヨタ紡織株式会社内

Ｆターム(参考)　3B084 JA02　JG02

(54)【発明の名称】空調シート

(57)【要約】
【課題】シート外部へ配出する風の多様化を図ること。
【解決手段】シート内部から配風された風Ａをシート外部へと配出する２つの吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２を備える空調シート１であって、２つの吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２が、互いに異なる配風経路（ダクト１０Ａ，１０Ｂ）から風の供給を受けて互いに異なる温度もしくは湿度の風を配出することのできる構成とされているものである。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
シート内部から配風された風をシート外部へと配出する２つの吹出口を備える空調シートであって、
前記２つの吹出口が、互いに異なる配風経路から風の供給を受けて互いに異なる温度もしくは湿度の風を配出することのできる構成とされている空調シート。
【請求項２】
請求項１に記載の空調シートであって、
当該空調シートが着座者の身体を裏側から少なくとも一方側のサイドにかけて包み込む形で支えるシェル構造を備え、
該シェル構造が内部の仕切られた中空形状から成る筐体部によりその基本形状の一部が形作られており、該仕切りの付いた筐体部によって前記２つの吹出口にそれぞれ別々の風を供給することのできる前記配風経路が形成されている空調シート。
【請求項３】
請求項１又は請求項２に記載の空調シートであって、
前記２つの吹出口のうちの一方が着座者の頭部の前方域に向かって横方向から風を配出する顔向けの吹出口とされ、前記２つの吹出口のうちの他方が着座者の頭部の上方域に向かって横方向から風を配出する頭上向けの吹出口とされている空調シート。
【請求項４】
請求項３に記載の空調シートであって、
前記顔向けの吹出口が前記頭上向けの吹出口よりも前側に位置する高さ方向に長いスリット形状とされ、前記頭上向けの吹出口が前記顔向けの吹出口よりも上側に位置する前後方向に長いスリット形状とされている空調シート。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、空調シートに関する。詳しくは、シート内部から配風された風をシート外部へと配出する２つの吹出口を備える空調シートに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、いわゆる空調シートとして、シート内部から配風された風をシート表面より配出させて着座者の快適性を向上させる送風機能を備えたものが知られている（特許文献１）。具体的には、シート表面に風の吹出口が複数設けられており、各々の吹出口から着座者に向かって風が吹き出されるものである。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００６－１０２１９３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
上記従来技術では、いずれの吹出口からも同一種類の風しか吹き出されないため、着座者に対して身体の部位毎に異なる快適な風を配出することができない。本発明は、上記問題を解決するものとして創案されたものであって、本発明が解決しようとする課題は、シート外部へ配出する風の多様化を図ることにある。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
上記課題を解決するために、本発明の空調シートは次の手段をとる。
【０００６】

第１の発明は、シート内部から配風された風をシート外部へと配出する２つの吹出口を備える空調シートであって、２つの吹出口が、互いに異なる配風経路から風の供給を受けて互いに異なる温度もしくは湿度の風を配出することのできる構成とされているものである。

【０００７】

この第１の発明によれば、２つの吹出口から互いに異なる種類の風を配出できるようになることで、シート外部へ配出する風の多様化を図ることができ、着座者の身体の部位毎に異なる種類の風を当てることができる。

【０００８】

第２の発明は、上述した第１の発明において、次の構成とされているものである。空調シートが着座者の身体を裏側から少なくとも一方側のサイドにかけて包み込む形で支えるシェル構造を備える。シェル構造が内部の仕切られた中空形状から成る筐体部によりその基本形状の一部が形作られており、この仕切りの付いた筐体部によって２つの吹出口にそれぞれ別々の風を供給することのできる配風経路が形成されている。

【０００９】

この第２の発明によれば、空調シートのシェル構造を利用して、２つの吹出口にそれぞれ別々の風を供給することのできる配風経路を合理的に形成することができる。

【００１０】

第３の発明は、上述した第１又は第２の発明において、次の構成とされているものである。２つの吹出口のうちの一方が着座者の頭部の前方域に向かって横方向から風を配出する顔向けの吹出口とされ、２つの吹出口のうちの他方が着座者の頭部の上方域に向かって横方向から風を配出する頭上向けの吹出口とされている。

【００１１】

この第３の発明によれば、着座者の顔と頭とにそれぞれ異なる温度や湿度の風を当てられるようになるため、顔と頭の両方が快適となる風の配出を行うことができる。

【００１２】

第４の発明は、上述した第３の発明において、次の構成とされているものである。顔向けの吹出口が頭上向けの吹出口よりも前側に位置する高さ方向に長いスリット形状とされ、頭上向けの吹出口が顔向けの吹出口よりも上側に位置する前後方向に長いスリット形状とされている。

【００１３】

この第４の発明によれば、着座者の顔と頭とにそれぞれ異なる温度や湿度の風を広い範囲に亘って適切に当てることができると共に、双方の風を互いに混ざりにくい状態で配出することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１４】

【図１】実施例１の空調シートの概略構成を表した斜視図である。

【図２】図１の正面図である。

【図３】図１の側面図である。

【図４】図１の要部分解斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【００１５】

以下に、本発明を実施するための形態について、図面を用いて説明する。

【実施例１】

【００１６】

《空調シート１の概略構成について》

始めに、実施例１の空調シート１の構成について、図１～図４を用いて説明する。なお、以下の説明において、前後上下左右等の各方向を示す場合には、各図中に示されたそれぞれの方向を指すものとする。本実施例の空調シート１は、図１～図３に示すように、自動車の後部側座席として構成されている。上記空調シート１は、着座者Ｐの背凭れ部とな

るシートバック２と、着座部となる不図示のシートクッションと、を備えた構成とされている。

【００１７】

上述したシートバック２は、着座者Ｐの胴体Ｐｂを後側（裏側）から左右両サイドにかけて包み込む形で支えることのできる湾曲形状のシェル構造２Ｓを備えた構成とされている。具体的には、上述したシェル構造２Ｓは、シートバック２の前面の中央部分を成して着座者Ｐの胴体Ｐｂを後側から支持する天板メイン部２Ａと、シートバック２の前面の左右両サイド部分を成して着座者Ｐの胴体Ｐｂを左右両外側（両横側）から包み込む形で支持する天板サイド部２Ｂと、を備える。上述したシートバック２は、その天板メイン部２Ａの上部側領域が着座者Ｐの頭部Ｐｈを凭れ掛けさせることのできるヘッドレスト部２Ａａとして構成された、いわゆるハイバックタイプの構成とされている。

【００１８】

上述したシートバック２の左右の各天板サイド部２Ｂは、それぞれ、上述した天板メイン部２Ａの左右両側の縁部から前外側に向かって湾曲した形で張り出して着座者Ｐの胴体Ｐｂを左右両サイドから包み込む形で覆う形状とされている。上述した各天板サイド部２Ｂは、それらの上部側領域が、下部側領域よりも前外側に大きく張り出して着座者Ｐの頭部Ｐｈを左右両サイドから包み込む形で覆うことのできる張出部２Ｂａとして形成されている。

【００１９】

これら張出部２Ｂａは、それぞれ、前外側に向かって高さ幅を漸次先細り状に丸めていく形で、概ね標準姿勢の着座者Ｐの頭部Ｐｈと前面を揃える位置まで前側に張り出す形状とされている（図３参照）。これら張出部２Ｂａの張り出しにより、着座者Ｐの頭部Ｐｈの左右両サイドには、左右両側からの視界を適切に遮ることのできる良好なパーソナルスペースが形成されるようになっている。

【００２０】

上述した各張出部２Ｂａには、それらの互いに対向する内側面部の周縁部位に、同周縁部位に沿ってスリット状に開口する吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２が形成されている。また、上述した各天板サイド部２Ｂの各張出部２Ｂａより下側の周縁部位にも、同周縁部位に沿って高さ方向に長尺なスリット状に開口する吹出口２Ｂｃ１，２Ｂｃ２が形成されている。

【００２１】

上述した各張出部２Ｂａの周縁部位に沿って形成された各吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２は、それぞれ、上述した各張出部２Ｂａにおける着座者Ｐの頭部Ｐｈの上面付近を前後方向に横切る上縁部位（吹出口２Ｂｂ１）と、各張出部２Ｂａにおける着座者Ｐの頭部Ｐｈの前面付近を高さ方向に横切る前縁部位（吹出口２Ｂｂ２）と、に分かれて形成されている。これら吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２は、それぞれ、上述した各張出部２Ｂａ内に設けられた後述するダクト１０Ａ，１０Ｂを通してシート下に設けられた不図示の送風機から送り出された風Ａを、着座者Ｐの頭部Ｐｈに向けて横方向（左右方向）に吹き出すように機能する構成とされている。

【００２２】

詳しくは、上述した各張出部２Ｂａの上縁部位に形成された吹出口２Ｂｂ１は、図３に示すように、比較的大柄な体格の着座者Ｐ（ＡＭ５０）から比較的小柄な体格の着座者Ｐ（ＡＦ０５）までのどの体格の着座者Ｐが着座しても、概ね、その着座者Ｐの頭部Ｐｈの上面付近に風Ａを吹き出すことができる配置とされている。また、上述した各張出部２Ｂａの前縁部位に形成された吹出口２Ｂｂ２も、比較的大柄な体格の着座者Ｐ（ＡＭ５０）から比較的小柄な体格の着座者Ｐ（ＡＦ０５）までのどの体格の着座者Ｐが着座しても、概ね、その着座者Ｐの頭部Ｐｈの前面付近に風Ａを吹き出すことができる配置とされている。

【００２３】

図１～図３に示すように、上述した各吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２は、それぞれ、互いに

異なる送風機（不図示）と接続されて、互いに異なる温度や湿度の風Ａを吹き出すことができる構成とされている。具体的には、例えば、前縁側の吹出口２Ｂｂ２から吹き出される風Ａの温度を上縁側の吹出口２Ｂｂ１から吹き出される風Ａの温度よりもぬるくしたり、前縁側の吹出口２Ｂｂ２から吹き出される風Ａの湿度を上縁側の吹出口２Ｂｂ１から吹き出される風Ａの湿度よりも高くしたりするといったような設定が行えるようになっている。

【００２４】

このような設定とすることで、例えば夏季等の車内の温度が比較的高い場合に、着座者Ｐの頭部Ｐｈの上面付近には快適な冷温に調節された風Ａを吹き付けつつも、着座者Ｐの頭部Ｐｈの前面付近、すなわち顔の前面付近には、頭部Ｐｈの上面付近ほど冷たくはない適温かつ乾燥させにくい適度に湿った風Ａを吹き付けることができるようになる。また、冬季等の車内の温度が比較的低い場合も同じように、着座者Ｐの頭部Ｐｈの前面付近及び上面付近に対してそれぞれに合った適度な温かさの風Ａを吹き付けつつも、着座者Ｐの頭部Ｐｈの前面付近、すなわち顔の前面付近には、乾燥させにくい適度に湿った風Ａを吹き付けることができる。なお、各吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２から吹き出される風Ａは、互いに同じ温度や湿度に設定されることがあってもよい。

【００２５】

このような構成とされていることにより、着座者Ｐの頭部Ｐｈに対して、その当てられる部位によって異なる快適な風Ａを同時に吹き出すことができる。また、上述した着座者Ｐの頭部Ｐｈの前面付近に向かって風Ａを吹き出す吹出口２Ｂｂ２に繋がるダクト１０Ｂには、同ダクト１０Ｂ内を通る風Ａに対して不図示の芳香器から芳香を付加することのできるチューブ１０Ｔが接続されている。上記構成により、着座者Ｐの顔面付近にリラックス効果等の快適性向上効果のある芳香のついた風Ａを配出させて、着座者Ｐに対してより快適な風Ａを吹き付けることができるようになっている。

【００２６】

また、各天板サイド部２Ｂの各張出部２Ｂａより下側の領域の周縁部位に沿って形成された各吹出口２Ｂｃ１，２Ｂｃ２は、それぞれ、各天板サイド部２Ｂにおける着座者Ｐの胴体Ｐｂの上半部付近を高さ方向に横切る前縁部位（吹出口２Ｂｃ１）と、各天板サイド部２Ｂにおける着座者Ｐの胴体Ｐｂの下半部付近を高さ方向に横切る前縁部位（吹出口２Ｂｃ２）と、に分かれて形成されている。これら吹出口２Ｂｃ１，２Ｂｃ２は、それぞれ、不図示のダクトを通してシート下に設けられた不図示の送風機から送り出された風Ａを、着座者Ｐの胴体Ｐｂに向けて横方向（左右方向）に吹き出すように機能する構成とされている。

【００２７】

詳しくは、図３に示すように、上述した上側の各吹出口２Ｂｃ１は、比較的大柄な体格の着座者Ｐ（ＡＭ５０）から比較的小柄な体格の着座者Ｐ（ＡＦ０５）までのどの体格の着座者Ｐが着座しても、概ね、その着座者Ｐの胴体Ｐｂの上半部付近に風Ａを吹き出すことができる配置とされている。また、上述した下側の各吹出口２Ｂｃ２も、比較的大柄な体格の着座者Ｐ（ＡＭ５０）から比較的小柄な体格の着座者Ｐ（ＡＦ０５）までのどの体格の着座者Ｐが着座しても、概ね、その着座者Ｐの胴体Ｐｂの下半部付近に風Ａを吹き出すことができる配置とされている。

【００２８】

図１～図３に示すように、上述した各吹出口２Ｂｃ１，２Ｂｃ２は、それぞれ、互いに異なる送風機（不図示）と接続されて、互いに異なる温度や湿度の風Ａを吹き出すことができる構成とされている。具体的には、例えば、下側の吹出口２Ｂｃ２から吹き出される風Ａの温度を上側の吹出口２Ｂｂ１から吹き出される風Ａの温度よりもぬるくするといったような設定が行えるようになっている。このような設定とすることで、例えば夏季等の車内の温度が比較的高い場合に、着座者Ｐの胴体Ｐｂの上半部付近には快適な冷温に調節された風Ａを吹き付けつつも、着座者Ｐの胴体Ｐｂの下半部付近、すなわち腹部の前面付近には、上半部付近ほど冷たくはない適温な風Ａを吹き付けることができるようになる。

また、冬季等の車内の温度が比較的低い場合も同じように、着座者Ｐの胴体Ｐｂの上半部付近及び下半部付近に対してそれぞれに合った適度な温かさの風Ａを吹き付けることができる。なお、各吹出口２Ｂｃ１，２Ｂｃ２から吹き出される風Ａは、互いに同じ温度や湿度に設定されることがあってもよい。

【００２９】

《各部の具体的な構成について》

以下、上述した送風機能を備えるシートバック２のシェル構造２Ｓの具体的な構成について、詳しく説明していく。図１～図３に示すように、上述したシートバック２のシェル構造２Ｓを成す天板メイン部２Ａ及び各天板サイド部２Ｂは、それらの基本構造が次のような構成とされている。すなわち、内部に強度部材となる金属製のフレームを有し、同フレーム全体を覆うように発砲ウレタン製のパッドが被せ付けられて、更にその外表面全体を覆うように合成皮革製又はファブリック製のカバーが被せ付けられた構成とされている。

【００３０】

しかし、上記シェル構造２Ｓのうち、上述した各張出部２Ｂａだけは、中空状に形作られたアクリル樹脂製の筐体部１０によって構成されている。これら筐体部１０は、それぞれ、上述した各天板サイド部２Ｂ内に設けられた図示しないフレームに一体的に締結されて固定された状態として設けられている。具体的には、上述した各筐体部１０は、図４に示すように、曲板形状の本体板１１と、同本体板１１の裏側面部に蓋をする形に組み付けられて本体板１１と一体化される蓋板１２と、によって薄い中空箱形状に形成されている。

【００３１】

これら筐体部１０は、それぞれ、各張出部２Ｂａの張り出す上方向や前方向に向かって、それぞれ、それらの本体板１１と蓋板１２との重ね合わされた厚みが漸次先細り状に薄くなっていく形状とされている。具体的には、各筐体部１０は、上述した本体板１１の裏面上の所々の箇所から筋状に立ち上がる形で延びる各リブ１１Ａ～１１Ｃが、各張出部２Ｂａの張出方向に向かってそれらの立ち上がり高さが漸次低くなっていく形状とされていることで、これらリブ１１Ａ～１１Ｃを介して互いに合わされる本体板１１と蓋板１２との重ね合わされた厚みが各張出部２Ｂａの張出方向に向かって漸次薄くなっていく形状とされている。

【００３２】

より詳しくは、上述した本体板１１の裏面には、その張出方向の周縁部に沿って連続的に立ち上がる形で延びるリブ１１Ａと、本体板１１の裏面上から張出方向に放射状に立ち上がる形で延びる２本のリブ１１Ｂと、これら２本のリブ１１Ｂの間の空間を仕切るように本体板１１の裏面上から張出方向に放射状に立ち上がる形で延びるリブ１１Ｃと、が形成されている。上述した各リブ１１Ａ～１１Ｃは、本体板１１の裏側に蓋板１２が合わせられることにより、蓋板１２に対して隙間なく接触した状態にセットされて、蓋板１２と本体板１１の裏面との間の隙間を区画した状態となる構成とされている。

【００３３】

上記構成により、本体板１１の裏面と蓋板１２との間には、上記周縁のリブ１１Ａと放射状に延びる２本のリブ１１Ｂとによって囲まれると共にその間を走るリブ１１Ｃによって２つの略中空扇形状の閉じ空間となるように仕切られたダクト１０Ａ，１０Ｂが形成されている。上述した各ダクト１０Ａ，１０Ｂは、それらの扇形の中心側の壁部を成すリブ１１Ｂに形成された各供給口１１Ｄ１，１１Ｄ２から上述した不図示の各送風機から個別に送り出される風Ａの供給を受け、その受けた風Ａを本体板１１の各扇形の外周縁箇所に貫通して形成された各吹出口１１Ｅ１，１１Ｅ２から外部へと配出するように配風する構成とされている。上述した各吹出口１１Ｅ１，１１Ｅ２により、前述した各吹出口２Ｂｃ１，２Ｂｃ２が形成されている。

【００３４】

詳しくは、上述した各吹出口１１Ｅ１，１１Ｅ２は、各ダクト１０Ａ，１０Ｂの周縁部

位に沿って細長いスリット形状に貫通した形となって延びるように形成されている。より詳しくは、上側に仕切られた各ダクト１０Ａの吹出口１１Ｅ１は、各張出部２Ｂａの上側の縁部に沿って前後方向に長く延びるスリット形状に貫通して形成されている。また、前側に仕切られた各ダクト１０Ｂの吹出口１１Ｅ２は、各張出部２Ｂａの丸められた前縁部に沿って高さ方向に長く延びるスリット形状に貫通して形成されている。

【００３５】

より詳しくは、上述した各ダクト１０Ａ，１０Ｂは、それらの扇形の中心側から外周縁側に向かって、それらの内部の断面厚が漸次先細り状に狭められていくと共に断面幅が漸次末広がり状に広がっていく形となって形成されている。上記構成により、各ダクト１０Ａ，１０Ｂは、各張出部２Ｂａの形状に倣って張出方向の先端側に向かって漸次薄型になっていく形状とされていても、それらの内部の断面積を狭めることなく先端側へ向かって大きな風量を送り出すことができるようになっている。

【００３６】

また、各吹出口１１Ｅ１，１１Ｅ２は、各ダクト１０Ａ，１０Ｂの配風方向の先端側の外周縁箇所において、上述したリブ１１Ｂとリブ１１Ｃとの間の両端側領域を残す、断面幅方向の略全域に亘ってそれぞれ長く延出したスリット形状となって形成されている。しかし、各吹出口１１Ｅ１，１１Ｅ２は、それらの開口面積が、各ダクト１０Ａ，１０Ｂ内のどの部分で切った断面積よりも小さくなる大きさに開口した形状とされている。このような構成とされていることにより、各吹出口１１Ｅ１，１１Ｅ２は、各ダクト１０Ａ，１０Ｂ内を配風される風Ａよりも風速を上げて着座者Ｐの頭部Ｐｈに向かって風Ａを吹き出せるようになっている。

【００３７】

したがって、図１に示すように、上述した前後方向に長く延びる上側の各吹出口１１Ｅ１によって、着座者Ｐの頭部Ｐｈの上面付近に前後方向の広い範囲に亘って適切に風Ａを吹き届かせることができる。また、上述した高さ方向に長く延びる前側の各吹出口１１Ｅ２によって、着座者Ｐの頭部Ｐｈの前面付近に高さ方向の広い範囲に亘って適切に風Ａを吹き届かせることができる。また、上述した各ダクト１０Ａ，１０Ｂを区画形成する各リブ１１Ａ～１１Ｃによって、筐体部１０の構造強度を高めるための補強部材として合理的に機能させることができる。上述したダクト１０Ｂ内を通る風Ａに芳香を付加するチューブ１０Ｔは、同ダクト１０Ｂを区画形成するリブ１１Ｂに対して外部から通されてダクト１０Ｂ内の空間に接続された状態として設けられている。

【００３８】

《まとめ》

以上をまとめると、本実施例の空調シート１は次のような構成とされている。すなわち、シート内部から配風された風（風Ａ）をシート外部へと配出する２つの吹出口（吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２）を備える空調シート（空調シート１）であって、２つの吹出口（吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２）が、互いに異なる配風経路（ダクト１０Ａ，１０Ｂ）から風（風Ａ）の供給を受けて互いに異なる温度もしくは湿度の風（風Ａ）を配出することのできる構成とされているものである。このように、２つの吹出口（吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２）から互いに異なる種類の風（風Ａ）を配出できるようになることで、シート外部へ配出する風（風Ａ）の多様化を図ることができ、着座者（着座者Ｐ）の身体の部位毎に異なる種類の風（風Ａ）を当てることができる。

【００３９】

また、空調シート（空調シート１）が着座者（着座者Ｐ）の身体（胴体Ｐｂ）を裏側から少なくとも一方側のサイドにかけて包み込む形で支えるシェル構造（シェル構造２Ｓ）を備える。シェル構造（シェル構造２Ｓ）が内部の仕切られた中空形状から成る筐体部（筐体部１０）によりその基本形状の一部が形作られており、この仕切りの付いた筐体部（筐体部１０）によって２つの吹出口（吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２）にそれぞれ別々の風（風Ａ）を供給することのできる配風経路（ダクト１０Ａ，１０Ｂ）が形成されている。このような構成とされていることにより、空調シート（空調シート１）のシェル構造（シェ

ル構造２Ｓ）を利用して、２つの吹出口（吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２）にそれぞれ別々の風（風Ａ）を供給することのできる配風経路（ダクト１０Ａ，１０Ｂ）を合理的に形成することができる。

【００４０】

また、２つの吹出口（吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２）のうちの一方が着座者（着座者Ｐ）の頭部（頭部Ｐｈ）の前方域に向かって横方向から風（風Ａ）を配出する顔向けの吹出口（吹出口２Ｂｂ２）とされ、２つの吹出口（吹出口２Ｂｂ１，２Ｂｂ２）のうちの他方が着座者（着座者Ｐ）の頭部（頭部Ｐｈ）の上方域に向かって横方向から風（風Ａ）を配出する頭上向けの吹出口（吹出口２Ｂｂ１）とされている。このような構成とされていることにより、着座者（着座者Ｐ）の顔と頭とにそれぞれ異なる温度や湿度の風（風Ａ）を当てられるようになるため、顔と頭の両方が快適となる風（風Ａ）の配出を行うことができる。

【００４１】

また、顔向けの吹出口（吹出口２Ｂｂ２）が頭上向けの吹出口（吹出口２Ｂｂ１）よりも前側に位置する高さ方向に長いスリット形状とされ、頭上向けの吹出口（吹出口２Ｂｂ１）が顔向けの吹出口（吹出口２Ｂｂ２）よりも上側に位置する前後方向に長いスリット形状とされている。このような構成とされていることにより、着座者の顔と頭とにそれぞれ異なる温度や湿度の風（風Ａ）を広い範囲に亘って適切に当てることができると共に、双方の風（風Ａ）を互いに混ざりにくい状態で配出することができる。

【００４２】

以上、本発明の実施形態を１つの実施例を用いて説明したが、本発明は上記実施例のほか各種の形態で実施することができるものである。例えば、本発明の空調シートは、家具等の非乗物用に供されるシートの他、自動車や鉄道等の車両又は航空機、船舶等を含む種々の乗物用に供されるシートにも広く適用することができるものである。上記空調シートに搭載される送風機能は、シートバックから風が配出されるものの他、シートクッションやオットマン、ヘッドレスト又はアームレスト等のシート構造体のいずれの箇所から風が配出されるものであってもよい。

【００４３】

また、吹出口への配風経路は、必ずしもシェル構造の構成部材自体によって構成されるものでなくてもよく、別体で構成されるものであってもよい。また、配風経路や吹出口の形状は特定の形に限定されるものでなく、種々の形状から成るものを適用することができるものである。また、配風経路をシェル構造の筐体部によって構成する場合、筐体部は、アクリル樹脂以外の樹脂材や、金属材その他の材料から成るものであってもよい。

【００４４】

２つの吹出口に対して互いに異なる温度もしくは湿度の風を配出するための構造は、互いに異なる送風機から別々の風を送る構造とするものの他、各々の配風経路の途中箇所に風の温冷機能を持つ冷暖房器具を設置するものであってもよい。また、吹出口は、２つに限らず、３つ以上であってもよい。すなわち、本発明の空調シートは、互いに異なる配風経路から風の供給を受けて互いに異なる温度もしくは湿度の風を配出することのできる２つの吹出口を備えるものであればよく、このような構成を備えるものであれば、吹出口が３つ以上で構成されるものであっても構わない。

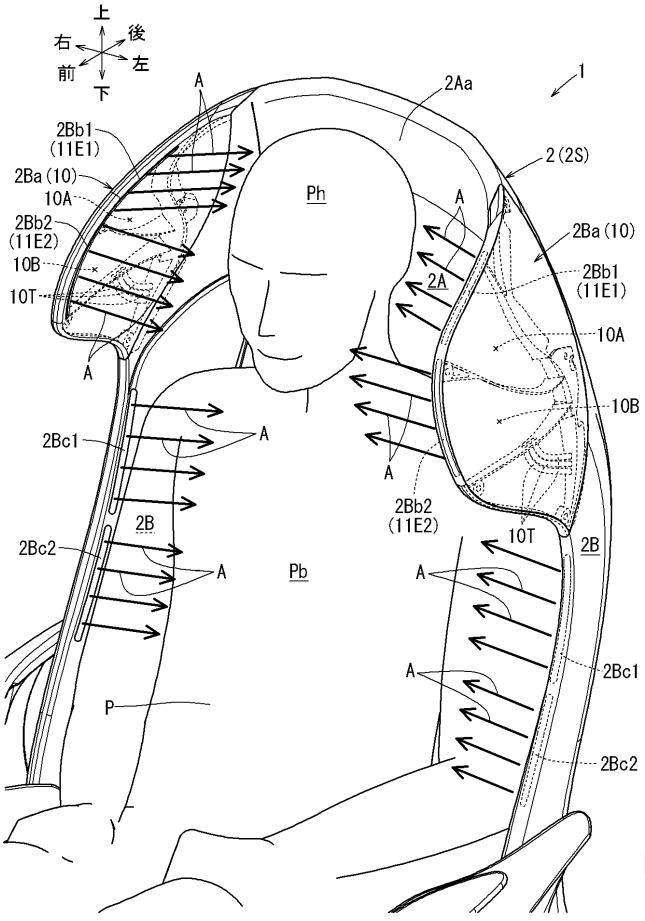
【符号の説明】

【００４５】

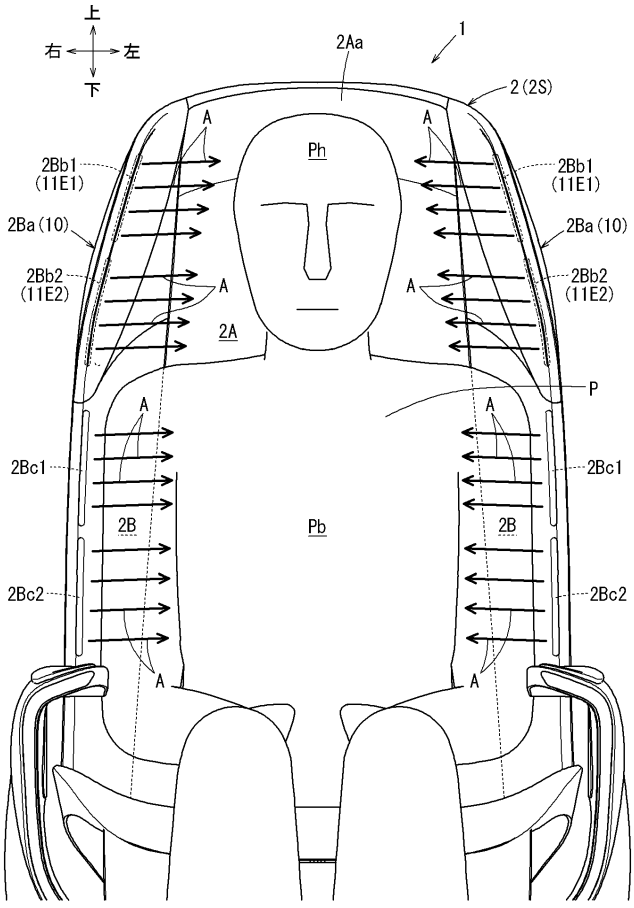
１　空調シート
２　シートバック
２Ｓ　シェル構造
２Ａ　天板メイン部
２Ａａ　ヘッドレスト部
２Ｂ　天板サイド部
２Ｂａ　張出部

２Ｂｂ１，２Ｂｂ２　吹出口
２Ｂｃ１，２Ｂｃ２　吹出口
１０　筐体部
１０Ａ，１０Ｂ　ダクト（配風経路）
１０Ｔ　チューブ
１１　本体板
１１Ａ　リブ
１１Ｂ　リブ
１１Ｃ　リブ
１１Ｄ１，１１Ｄ２　供給口
１１Ｅ１，１１Ｅ２　吹出口
１２　蓋板
Ａ　風
Ｐ　着座者
Ｐｈ　頭部
Ｐｂ　胴体

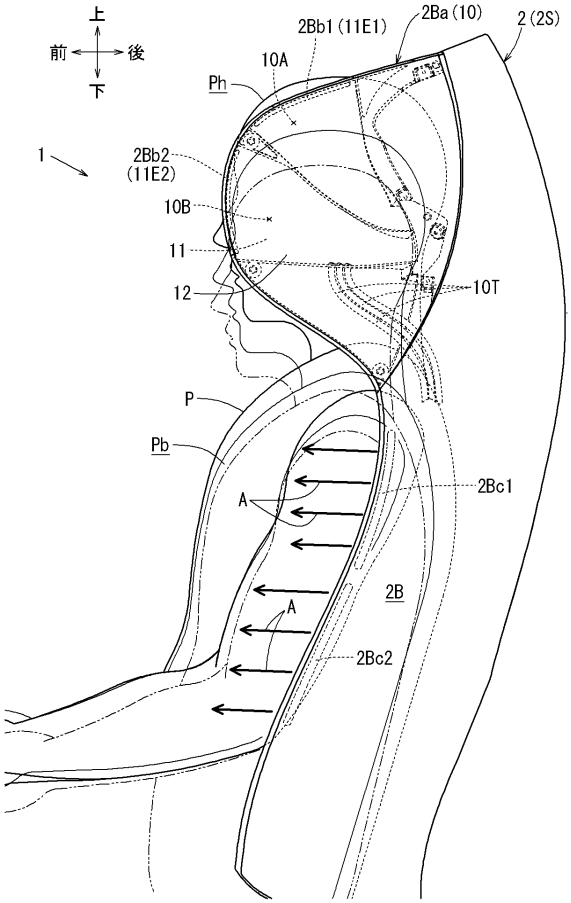
【図１】



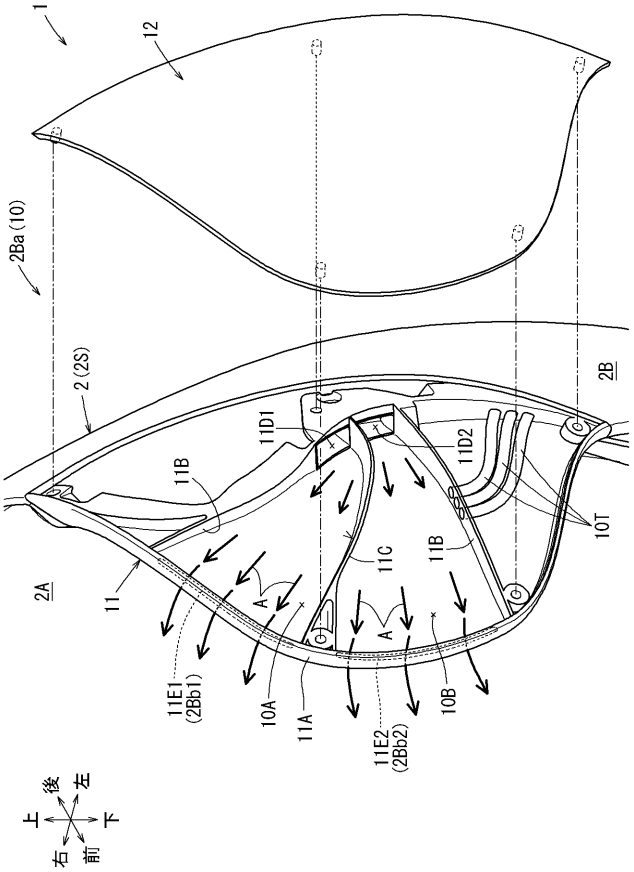
【図２】



【図３】


上
前
後
下
2Bb1 (11E1)
2Ba (10)
2 (2S)
10A
Ph
1
2Bb2
(11E2)
10B
11
12
10T
P
Pb
2Bc1
A
2B
A
2Bc2

【図４】


1
12
2Ba (10)
2 (2S)
2B
11D1
11D2
11B
10T
11C
11B
2A
11
A
A
11E1
(2Bb1)
10A
11A
11E2
(2Bb2)
10B
上
後
左
右
前
下